



クムスタカ・リンク Kumusta ka LINK

NEWS LETTER 第11号 2020/05/01

発行者 クムスタカ・リンク 代表 小林久美
〒356-0004 埼玉県ふじみ野市上福岡 1-6-34 DMビル 501
e-mail hiiragimahae1970@gmail.com ロゴ制作：ランドン／Logo by Landon



Andrea at Tatay niya



Kaneko Family



Graduates

CONTENTS

1P～7P ■スタディツアー報告
8P ■学校へ行こう！プロジェクト
8P ■活動日誌



Salamat po sa cooking!



Haircut



Hero at mgabata

● 2020 ツアー長期組日程表

日程	内 容
5 日	出発 (13:05 成田空港) 17:30 マニラ空港到着・夕食 【バギオへ移動】
6 日	バギオ到着 ・鉱山見学 ・「みなまたの木」朗読練習 ・夕食 (韓国焼肉)
7 日	小学校訪問 (コーディネエラ) ・「みなまたの木」朗読 ・コーヒー農園見学 【マースンへ移動】
8 日	※まつゆき・はるか帰国 テント設営 買い出しなど あいさつまわり
9 日	※短期・中期チーム合流 サン・フェビアンビーチへ 星空観察会 ホームステイ
10 日	マンガルダン市役所訪問 ・農政課、秘書室、福祉課 ヒーローショー レオナルド訪問 生活用品等配布 (川べりの家)
11 日	※短期チーム帰国 ※まつゆき合流 マンガルダン高校訪問 奨学生のお宅訪問
12 日	サラアン小学校訪問 「ひろいうみのおはなし」 読み聞かせ & たこ焼き (LINK 図書館) こども向けパーティー ・椅子取りゲーム ・ポット割ゲーム
13 日	帰国

スタディツアー 2020

うれしいことが3つあった。

まず、クムスタカリンクの奨学金を受けた家族の一人であったアンドレアが大学を卒業し、国立病院の医療ソーシャルワーカーを務めながら、私たちのツアーに同行してくれたこと。子どもたちに絵本の読み聞かせをしたり、学校や市役所での案内をしてくれるなど、だれから見てもアンドレアは大活躍だった。

もうひとつは、金子ファミリーが5人全員で参加してくれたこと。このニュースの中を見ていただければすぐお分かりいただけると思うが、小中学生である彼らの成長ぶりが著しく、今後のツアーを考えるうえでとても大きなパワーになってくれそうな確かな感じが得られたことである。

さらに一旦はツアーから遠ざかって、就職やら仕事やらで活躍してきた元学生から、今年は3人がツアー復帰を果たした。学生のときにツアーを体験していても卒業して社会の荒波にもまれる

と「忘れられちゃったのかな」と思えるほど疎遠になったりするのだが、しっかり覚えていてもらえたのは、なによりうれしいことであった。

フィリピン、マースン村の子供たちへの通学支援に加えて、スタディツアーとしてその都度学生やいろんな人たちと訪問活動を始めてからちょうど10年がたつ。この間、参加者の顔ぶれも、受け入れてくれる現地の状況も刻々と変わってきたが、このツアーの持っている魅力のようなものは受け継がれていくのだろう。

今回のツアーは新型コロナウイルスの影響をぎりぎりのタイミングですり抜けたようで、帰国してからも疑惑の目を向けられたり気を使ったりと大変だったが、とりあえず全員が無事に、けがも病気もなく乗り切ることができた。バギオでは反町さんはじめ、ゲストハウスの訪問者まで巻き込んで絵本の読み聞かせを行うなど、今回もまたたくさんの人にお世話になった。あらためて感謝を申し添えたい。(鈴木啓太郎)

There were three things that I felt happy. First, Andrea who was one of the scholarship children helped us every time. Second, all of Kaneko family participated in this tour. And the former members who graduated their university also participated in. This time, we could not act well because of coronavirus, but we managed to carry out some activities because people in Maasin helped and cooperate us. Thank you so much. (Keitaro S)

鉱山と環境問題

ルソン島北部のバギオ市には、鉱山がある。金を掘り、収入源にしている人もいる。金の原石には、岩や砂利が付いていて、それを取り除かなければ売り物にならない。それらを取り除く時に使われるのが、化学薬品である。昔は道具を使って取り除くしかなかったが、効率良く無駄なものを取り除けるため企業は化学薬品を乱用。近年では小規模で鉱山を掘る会社が多く存在し、化学薬品がそのまま海に流されてしまっている。これはまさに水俣であると思った。化学薬品を川に流している影響で魚も死んでいて、その事に気づかずに魚を食べている人もいる。

この問題を止めようとしてる CGN（コーディネエラ・グリーン・ネットワーク）の方に今回案内をしていただいたが、すぐには改善できないという。なぜか？野菜を地道に育て

文京学院大学人間学部 4 年 松田 直之

生計を立てるよりもハンマ 1 本で効率よくお金を稼ぐ事ができるからである。鉱山で金を見つければ、1 ヶ月の生活費を賄う事ができ、物によれば数ヶ月分にもなる。

私が最も問題だと思ったのは、働き手が未成年であるということ。「鉱山を掘るのをやめろ」と言いたいが、この子たちは街に出ると仕事がなく、盗みをしてしまう。

この悪循環を止めるために我々に何か出来る事はあるのか、深く考えさせられた。



Now, in Philippines, there are the problems about a mine. The people who live there have used chemical, dug a hole in a mountain and streamed water to river. And by that, The citizen, fish and enviroment has been influenced. I want them to recognaize it and stop doing, but it is so difficult because they make a living by that. This is a big problem not only in Philippines but also all over the world. So I would like to continue to participate in Kumusta Ka Link and try to tackle the problem.(Naoyuki)

「みなまたの木」の授業をして

文京学院大学人間学部 4 年 須藤 春香

バギオ市の小学生に絵本『みなまたの木』の特別授業を行った。

フィリピンの山岳地帯では、かつての日本同様、水銀を川に流している人々や会社が存在する。このような環境下では川を利用している地域の人々が水俣病になる可能性もあるだろう。日本で起こった悲劇を題材にする事で、子供たちの自ら改善しようとする気持ちを育てることを目的とした。

初めはツアー参加者 4 人で絵本の朗読をするつもりでいたが、長い英文を読むことは大変であったため、CGNの方が企画に参加してくれることになった。人数は倍以上になり、環境や演出の専門家が加わったことで磨きがかかった。

授業当日、高学年を対象に朗読を行う。アイスブレイクの甲斐あってか子供たちもこちらの話真剣に聞いているようだ。協力者の一人であるエキさんが水俣病についての動画子供たちに見せ、絵本の内容も含めて復習をしてくださった。難しい内容であったが、子供たちはしっかりと理解していて、自分がどのように行動したいかということまで考えていた。

この子供たちが考えを熟成し、将来に繋がることを願う。



■上／CGNメンバーとの事前準備
■下／小学校での授業の様子

I read to children the painting book which is written about Minamata. This book was little difficult for them to understand but the enviroment of the place that they live in is same situation of former Japan. So I hoped them to know the danger of it and I wanted them to think about it. The experiences of this tour was so precious for me. Thank you so much.(Haruka.S)

たくさんの練習

川越市立牛子小学校 5年 金子山吹

私は、レンジャーが敵に倒されてしまいそうな所に助けに入る空手マスターというとても大事な役を演じました。前回行ったときはゴミを捨ててしまう悪い子ども役だったので、配役が発表された時、うれしかったです。しかし同時に、「演技が上手くできるかな」「フィリピンの子供たちにうまく伝わるのかな」と、とても心配になりました。

日本や現地に行ってから、いっぱい練習しました。いざ本番、登場する前は、とってもきん張していました。でも、練習どおりに上手くできました。きん張して頭が真っ白になりましたが、体は動きました。

今回、私が学んだことは「たくさん練習すれば、本番は大丈夫」ということです。また来年もフィリピンに行きたいです。



I acted Karate Master on The Hero Show. I was glad acting it and I was worry about if I could do that. I practiced hard in Japan and after arrived in Philippines. Before The Hero Show, I was feeling nervous but it came along.

This time, I learned that if I practice hard, it goes well. I'd like to go to Philippines next year. (Yamabuki.K)

ヒーローショーとマーシン村

川越市立砂中学校 1年 金子風吹

今回、僕はヒーローショーのレッドを演じ、学んだことがあります。「マーシン村の人たちは、僕たちクムスタカリンクを受け入れてくれている」ということです。新型コロナウイルスの関係で学校での活動ができず、バスケットコートで公演をしました。昨年ほどではなかったですが、多くの人に見てもらえました。

中国や日本で既にウイルス患者が発生していたのに、マーシン村の人たちが僕たちを、「この人たちなら大丈夫」と思ってくれているからだと思います。日本人のぼくたちを警戒していないということは、これまでのリンクの活動と現地の方たちのおかげです。僕もこうした優しい心を持ち、思いやりのある行動をしていきたいです。



This time, I learned that people in Maasin village take in us by The Hero Show. I was glad many people watched it. There were many patients with COVID-19 in Japan and China but they didn't beware us. I think that was because we are Kumusuta Ka Link and they rely on us. So I will have such a good mind and go back to Philippines again. (Fubiki.K)

小さなことから大きなことへ

城西川越中学校 3年 金子伊吹

マーシン村でヒーローショーをして、外国でもヒーローは大人気だなと思った。ブルー役の僕に、たくさん子どもたちが寄ってきてくれた。また、全身タイツを着られたことも良かった。普通の中学生を送っているだけだったら、このような体験はできない。

世界中で環境問題が話題になっているけれど、ヒーローショーを観て少しでも興味を持ってもらい、問題改善のきっかけになってくれれば、ショーをした甲斐があったと思う。フィリピンの子どもたちはショーをかじりつくように観てくれていたので、ショーを終えた後、家族や友達にショーの話をして、どんどん広めて欲しい。新型コロナウイルスが流行中、このイベントができて良かった。



When I participated in The Hero Show, I felt a hero is famous overseas. It is a precious time for me to do that because if I go to school as usual, I can't experience that. There are so much environmental problems all over the world, so I hope that many children in Maasin village watch the hero show and be interested in the problems next time. I was glad I went to Philippines. (Ibuki.K)

初めてのフィリピンの星空

金子 浩章

初めてスタディーツアーに参加しました。ツアーでの自分の主な活動は、ヒーローショーの参加と天体望遠鏡と双眼鏡を持参して、星空を案内することでした。夜空には満月を1日過ぎた明るく丸い月が輝いていました。満月は、月以外の星を見るには夜空を明るくします。日本では市街地の街灯や看板の照明の光が夜空を明るくしてしまい、微かな輝きの星を見えにくくします。マーシン村の夜空は、街灯などの街明かりが少なく、満月でも夜空に多くの星が見られました。

持参した望遠鏡や双眼鏡で月とプレアデス星団(すばる)を観望しました。多くの人にレンズを覗いてもらおうと、驚きや満足げな表情をしていただきました。いつも夜空にある天体を、レンズを通して見ると、「これほど素晴らしく見える」ということを実感していただきました。

マーシン村の人も、ツアーで訪問した日本の仲間も、レンズを覗いた表情は同じでした。同じものを見て同じ表情や感情を抱くことができる日本とフィリピンの仲間なら、目標に向かって協力し合えると感じました。

I participated in this tour for the first time. This time I brought a telescope and let many people watch the moon and stars. At that time, every children were surprised. I think they could know that stars are beautiful. This is very special tour for me. (Hiroaki.K)



■上／日本から持参した望遠鏡で月を観察する。子どもたちも集まってきた。
■下／順番に月を観察。興味があるのは、大人も子どもも国籍も関係ない。

読み聞かせ ひろいうみのおはなし

Story telling "Kwento ng Isang Malawak na Dagat"

小川 愛子

「タガログ語で読みきかせなんて!! そんなこと可能だろうか。」という気持ちもあったが、準備に入った。題材は、所沢市役所環境課が制作した紙芝居「ひろいうみのおはなし」、プラスチックごみが海洋生物に与える危険性をお話にしたもの。ウミガメの鼻にプラスチックのストローが刺さっている痛ましい映像を見た人も多いと思う。そんなお父さん亀の子どもが主人公だ。

読み聞かせをするマーシン小学校やサラアン小学校は海にそんなに近いわけではないが、川も海につながっている。身近な事柄として考えてほしい、そんな思いで企画した。在日フィリピン人の友人にタガログ語へ

の翻訳をしてもらい、語りを録音して練習した。

新型コロナウイルスの関係で、小学校の教室では実施できず、マーシン村にある LINK が建てた図書館(と言っても小さな小屋のような建物)で、昼休みと放課後の2回、日本のB級グルメたこ焼きのフィーディングと併せて実施した。

私の拙いタガログがどれだけ通じたかな? 映像や、現地スタッフ助けで何とか形になった。彼らの問いかけに「Opo!」(はい)「Hindi!」(いいえ)と、元気よく手をあげて答えてくれてうれしい! たこ焼きもおいしかったよね。きっと!



■小学校で行う予定だった読み聞かせだが、LINKの建てた図書館でプロジェクターを使った上映会形式で行った。



■ひろいうみのおはなし
「子どもたちにも一緒になってプラスチックごみについて考えてもらいたい!」と所沢市の保育士が企画制作。市立保育園で読み聞かせをしています。第7回プラチナ大賞「奨励賞」受賞。

This time, I read to children. The painting book is written about marine pollution. I contrived this project because Maasin elementary school and Salaan elementary school aren't near the sea, but I hope them to know this problem. We couldn't read to children in the elementary school by the influence of coronavirus but many children seemed to enjoy it. (Aiko.O)

「今」に感謝

金子 千晶

今回のツアーでは、ジプニーの運転手である、アジンさんのご自宅に宿泊させていただきました。奥様と娘さんのいらっしゃるお宅です。私の娘と同じ年齢だったので、とても親近感がわき、楽しい時間を過ごすことができました。二階建ての立派なお宅に、現在はお一人で住んでいるそうです。奥様は海外へ出稼ぎに、娘さんは祖母の所にいらっしゃるとのことでした。壁には家族の写真が沢山飾られており、次に会える日のことを楽しみにしておられました。

フィリピンでは両親が出稼ぎをすることが多く、祖父母に育てられる子供が沢山いるそうです。以前、リンクのメンバーであるメラニーからも聞いたことがあります。実際、メラニーも子どもと離ればなれに暮らしてしまし

た。生活を維持するためには、こうした選択を取らざるを得ないのかもしれませんが。

しかし、子どもを持つ同じ親として、複雑な気持ちをめぐうことができませんでした。家族と離ればなれに暮らしたい人はいません。一緒に食卓を囲んでの家族団らん。何気ない日常の出来事です。が、とても幸せなことだということを改めて感じました。家族と過ごせる「今」に感謝です。

In Philippines, many people are working away from home and many children is reared by their grandparents. I'm also a mother of three children so I feel I remember that this can happen to us, too. There is no person who doesn't want to live without one's family. Living with family is so happy. But, it is not usual. (Chiaki.K)



■上／アジンさんと（右が筆者）
■下／アジンさんの家

初めてのフィリピン

永田 洋子

どこへでも行きたがりやの私は今回初めてスタディーツアーに同行させてもらった。

今回のツアーは、中国に端を発した新型コロナウイルスの影響で日本でも大きな社会問題となり、受け入れ先の現地でもアクティビティが難しくなり心配されての出発となった。スタディーツアーの主な活動は、ヒーローショー、絵本の読み聞かせ、奨学生の家庭訪問、川ベリの家への物資の配布などであった。

私がフィリピンに行ってみたいと思ったもう一つの問題意識は、授業で取った科目「レジリエンスの諸相」の中で、1991年6月、西ルソン島・ピナトゥボ山の大噴火によって、最も深刻な被害を被ったアエタ原住民の人々が避難を余儀なくされ、避難先でどう復興していったのかが述べられていた。そのこととの関連で関心を持ったのは、メラニーハウスからちょっと行ったところに川ベリで生活している人々がいたことを知っ

た。Kさんの話によると、そこはかつて被災した人たちが避難をしてきた場所とのこと。人々が日本からの物資支援をこころよく受け入れてくれたことはうれしかった。

今回のツアーで、現地の様子と直接支援を届けるクムスタカ・リンクの活動を知ることができた。現地での活動をサポートしてくれたランドンさんをはじめフィリピーノ・ホスピタリティに感謝。

This tour, because of the influences of coronavirus, every activity in Philippines was difficult to carry out. One of the reasons that I went to Philippines was about Mount Pinatubo. I was interested in the life of the people living there. I could know the people who living in the river side house near our house are the refugees avoiding from a disaster before. This tour, I experienced so many special things. Thank you so much. (Yoko.N)



■この道の先が川ベリの家

私自身が癒される旅

伊藤 恵莉



約3年ぶりにフィリピンを訪れた。社会情勢は今ほどではないが、コロナウィルスによる混乱の中で私達を受け入れてくれた

現地の方々も例に漏れず混乱していたと思う。実際、訪れた小学校で「ウィルスは大丈夫なの？」と聞かれたし、スーパーであからさまに避けられたこともあった。

しかしそういったなかでも親切にしてくれる人々がやはり大半で、世界のことなどよそに私はすっかり今回の

旅で癒されてしまった。人々がゆったりと過ごしている様であるとか、自由にのびのびと遊ぶ子供達とか、そういったものである。私は多分またフィリピンを訪れると思う。それはもちろんマースィン村の人達の暮らしが良くなればという思いもあるが、なによりまず私自身が癒される為に。

I have visited Philippines for the first time in three years. I think the local people who took in us also have become anxious in the situation by COVID-19. Actually, when I visited an elementary school, some people told me how I care about it, and some people in a supermarket tried avoiding me in an obvious way. However, in such a situation, the kind of people was more than them. People, kids and animals in Maasin village and Baguio brought relief to me. I probably visit Philippines again to get better Maasin village and also myself.(Eri.I)

5年ぶりのフィリピン

石川 菜希

今回で6回目の参加となるツアーは、社会人になってからは初めてで、学生の時とはまた違う気持ちで参加することができました。小学生だった子どもたちが高校生になり、同世代の子はそれぞれ社会に出て働き、5年ぶりのフィリピンはとても懐かしく、時間の経過を感じ、この場所にまた来ることができた嬉しさと感動で胸がいっぱいになりました。

現地でサポートしてくれる仲間やクムスタカリンク、協力して下さるみなさんのおかげで実現できることがたくさんあります。何年経っても、離れていても、このつながりはなくならないと確信しました。いくつになっても何かに挑戦したり、新しいことを始めたりする気持ちを忘れないでいたいと思います。フィリピンでの出会いや経験はこれから先もずっとかけがえのないものです。また必ずみんなに会いに行きます。



I visited Philippines for the first time after I graduated my university. I could participate in this tour with different feelings when I was an university student and I was glad that I could come back to the place. I made sure that unless Kumusuta Ka Link continues, our connection will continue forever. The meeting and experience in Philippines are very precious for me. I will definitely go back to Philippines again. (Maki.I)

またここに帰りたい

田中 ひかり

私は大学3年生の時に初めてフィリピン、マースィン村を訪れて、それ以来7年ぶり2回目のスタディツアーだった。

マースィン村の様子は車やトライシクルが増えていたりと変わっている部分もあったが、滞在地から見る景色や人々の温かさは変わることなく、7年分の色々な感情が湧き上がってきた。

一番感慨深かったことは、同世代のコーディネーター、ランドンがとても頼もしくなっていたこと、まだ学生だったアンドレアが社会人となりコーディネートをしてくれたこと。この二人や現地の方のサポートがなければ今回のツアーも成り立たなかっただろうし、改めてマースィン村とクムスタカリンクの絆の深さを実感した。こんな体験をさせて頂けて本当に有難い。私も自分にできることを日々精一杯励み、またここに帰りたい。今後に少し希望が見えた貴重な時間だった。



I went to Philippines in seven years, and in Maasin village, There were many different point from seven years ago. The most impressive thing for me is Landon and Andrea helped us so much in everything. Unless they did not help us and participate in this tour, we could not manage to success. I thank you all and I will be back to Philippines. This was so precious time for me. Thank you so so much. (Hikari.T)

スカラシップはクムスタカリンクの原点

坂 広行

私は今年、久しぶりにスカラシップ（奨学金）の家庭訪問に加わった。6軒のお宅を訪問し、不在であった家の親子には、後でメラニーハウスに来てもらうことになった。

この日は時間的に余裕があったのでゆっくりと各家庭を回ることができたと思う。私自身も体力的に余裕があったので、今回はじっくりと親や生徒たちの話を聞くことができた。移動中に付いてくる子供たちと、ふざけながら

歩く余裕もあった。そんな中で印象に残ったことは、このスカラシップの活動がクムスタカリンクの原点なのだなということだ。訪問先の親や子供たちが学校へ行けることを喜んでいる。直接喜びを声に出すわけではないけれど、安堵した表情を見せる。将来はエンジニアになりたいと、目標を定めている少年の言葉を聞くと、本当に重要な活動なのだなと思う。この活動があるからこそマーシンの人たちが私たちに受け入れてくれているのだと思う。

支援できる生徒の数は少ないかもしれないけれど、人生の中で、自分が力を貸すことでその人の将来が幸せになるということは、そうそうないことだと思う。来年以降も、私はスタディツアーに参加するし、クムスタカリンクの活動を支援していきたい。



This time, I could afford to talk with many children, their parents and an adult members. One of my memories standing out in is I realized the scholarship money activity is the origin point of this tour. I believe that only because of our activity, The people in Maasin village take in us. It is so precious for me to participate in this tour, so I will go to Philippines again. (Hiroyuki.S)

友人との再会

アキノ校長とカルロス

小林 久美

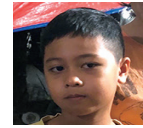
アキノ校長はマーシン小学校に赴任していた頃に出会った大切な友人。環境問題に熱心で、他校へ異動後も私たちの活動をサポートしてくれている。彼女が来日した際に半生について聞く機会があったが、例に漏れず苦学生だったとのこと。“FOCUS” 今やるべき事に集中すること！という言葉が印象的だった。そんな彼女と一緒に念願の海に行くことが出来、共に再会を喜び合った。

カルロスも篤農家で仕事熱心、研究熱心な人。マニラで弁護士として働いていたが、マーシン村に戻り農業協同組合を設立するなど、地域のために奔走している。今は市役所農政課でコンサルタントをしている。カルロスにはぜひ来日してもらい、日本の農業を見てもらいたい。

Principal Aquino is my friend of whom I respect. She is a very enthusiastic educator and supports our activities. I love her word "FOCUS" which influenced me. We rejoiced at the reunion. Carlos is a very enthusiastic farmer, too. He established agricultural cooperative and making efforts for Maasin and Mangaldan city. I would like to invite him to Japan and to show him Japanese agriculture in the future. (Kumi.K)



クムスタカ・リンクの奨学生たち



カイル・ケスター
Grade 2 (小学2年生)



ジェイソン・U・ガトレイ
Grade 4 (小学4年生)



ジョナサン・パウティスタ
Grade 5 (小学5年生)



オカ・ラン
Grade 5 (小学5年生)



MJ・ペトラ
Grade 5 (小学5年生)



エハラ・アキノ
Grade 6 (小学6年生)



フラヴィア・メイ・G
Grade 6 (小学6年生)



レイマート・S・マンガス
Grade 6 (小学6年生)



ジョン・パトリック・L
Grade 7 (高校1年生)



ブルュセル・P・マランバ
Grade 8 (高校2年生)



ゼジル・ソフィア・C
Grade 8 (高校2年生)



ジアン・アンジェロ
Grade 8 (高校2年生)



ジレル・C・パンザラン
Grade10 (高校4年生)



マーク・レスター
Grade11 (高校5年生)



Pumunta tayo sa paaralan! Ang proyekto

学校へ行こう！プロジェクト あなたもサポーターになりませんか

学校に行きたい子どもたちを応援したい。そんな思いからこのプロジェクトは始まりました。

フィリピンの小学校は無償ですが、教材費など若干のお金がかかります。そのわずかばかりのお金を工面するのが難しいために小学校でさえ行けない子どもがいます。また、マーシン村には高校がありません。そのため、ほとんどの子どもはトライシケルに乗ってマンガルダン市中心部の高校に通います。

一月 500 円で小学生、1,500 円で高校生が学校に通えます。ぜひサポーターになってください！

1ヶ月500円で
小学生が
学校に通えます
高校生は1,500円



下記の振込先に振込むか、クムスタカ・メンバーに直接手渡してください。一口 500 円でお一人何口でも OK です。

振込の場合は氏名・住所・連絡先をメールでお知らせ下さい
メール／hiiragimahae1970@gmail.com

■振込先

ゆうちょ銀行口座／名義 クムスタカ・リンク

口座番号 10310 - 95085251

または ○三八店（ゼロサンハチ） 普通 9508525

*サポーターには、クムスタカ・リンクのニュースレターをお送りします。



Salamat

カンパ・物資支援・ご協力をいただいた方々

2018 年 4 月～ 2020 年 3 月

個人／榊原さん・中村幸子さん・奥山康恵さん・斎藤恵さん

志摩頼子さん・綿貫公美さん

Bin Salzar and her friends(タガログ語翻訳、アフレコ)

Jocie (タガログ語教室)

多大なる支援、カンパ、ご協力をいただき、ありがとうございました。

紙上をお借りしてお礼申し上げます。

※会員の方のお名前は除いております。ご了承ください。

クムスタカ・リンク活動日誌 2018 年 4 月～ 2020 年 3 月

2019 年 3 月 19 日～ 24 日 スタディツアー 2019 参加者 5 名

11 月 3 日 かわごえ国際フェスタに出店

11 月 20 日 ツアー第 1 回打合せ

(以降、毎週水曜日タガログ語教室&打合せ)

2020 年 2 月 5 日～ 13 日 スタディツアー 2020 参加者 15 名

2 月 19 日 ツアー反省会

Bisitahin si Leonardo

レオナルドを訪ねて



初めてマーシンを訪ねた時は、5 人の脳性麻痺の子どもがいました。みんな長く生きられずこの世を去っていき、今はレオナルド 1 人になってしまいました。彼は今年 20 歳になります。おも湯かミルクしか受け付けられない彼の体はとても細いのですが、それでも頬などは青年らしい輝きがあります。今回も車いすを持参しました。外出が大好きなレオナルド、これでたくさん外出を楽しんでほしい。